

令和 5 年大磯町議会

6 月定例会一般質問（5 月 30 日・31 日）

質問議員	質 問 事 項（ 1 日 目 ）	答弁者
1 2 番 吉川 重雄議員 （ 80 分 ） 9：05～10:25	1. 今後の認定こども園について町の見解を問う 3 月定例会一般会計補正予算及び 4 月臨時会で町が提出した認定こども園を開園する計画の設計委託料が否決された。 その後、町民と思われる 6 名の方より町長宛に「提案書」が提出されたことが情報公開を求めて確認がとれた。 また、保護者より議会宛に「町立こども園についての陳情」が提出されたが、同じような主旨の内容を町は把握しているか。 色々な意見を受けて、今後の認定こども園についての町の見解を問う。	町 長
2 13 番 鈴木たまよ議員 （ 70 分 ） 10：45～11：55	1. 今後の農業施策について 新型コロナウイルスによるパンデミックやロシアのウクライナ侵攻により食品や飼料の輸入が限定されている。食料自給率の低い日本はその間、国内の食料自給率の向上を目指すべく取り組みを行うべきだったが、それもかなわない状況にある。 また有事のみならず、気候変動の影響による自然災害で、世界的に農作物の生産はこれまでよりリスクの高い状況にあるのではないかと私は考える。 食料自給率の向上については、町でも独自で対策を考え、取り組むことができるのではないか。食料自給率が低く、島国で周囲から断絶されやすい日本なら尚更のことだと思う。 大磯町も令和 2 年度より「人・農地プラン」の取り組みを始め、耕作放棄地の有効活用などを考えていると思うが、農業をもっと身近なものに、スピード感を持って取り組む必要性を感じている。 同時に、町内産の食材を求める声はさらに高まっているように感じる。自分や自分の家族が日々口にする食材が、どんなところで、どのような方法で、どんな人によって作られているものが身近にあるということは大きな魅力であり、定住促進にも繋がると思われる。 町長も政策集の中で「稼げる農業・漁業の育成・雇用創出」を掲げていることから、町内の第一次産業が活性化し、自給率向上に貢献することに期待している。以下の 3 点を中心に町の考えを問う。 （1）今後の農業施策の展開について （2）耕作放棄地の有効活用について （3）町内の児童・生徒への農業・漁業体験について 2. 黒岩公民館の進捗状況と認可地縁団体のあり方について 黒岩公民館の建て替えが計画されているが、建て替えをするにあたり、自治会を認可地縁団体として登録することが必要とされている。 昨今、自治会に加入しない世帯が増え、自治会のあり方自体を問われる時代の中で、法人化した自治会が継続していけるのか疑問に思う。	町 長 教育長

	黒岩公民館の建て替え自体については、地区の皆さんが希望するのであればそれに異議はないが、黒岩地区のみならず、他の地区についても法人化することで、将来的に地区の負担が増えるのではないかという懸念が払拭できない。以下の２点についての町の考えを問う。 (１) 黒岩公民館建替の進捗状況 (２) 町の認可地縁団体への移行状況	
3 6 番 二宮加寿子議員 (80 分) 13:00～14:20	1. 学校施設の安全で快適なトイレについて 文部科学省は、令和7年度までに公立学校のトイレの洋式化を95%まで整備するとの目標を掲げている。また、学校施設内の指定避難所のトイレも同様な整備が必要と考えるが、次の点を伺う。 (１) 本町の学校トイレの洋式化の現状と今後の計画について伺う。 (２) 多目的トイレ・ウォシュレット付きトイレの整備も合わせて推進する考えはどうか見解を伺う。 (３) 指定避難所のトイレについて、災害時に避難所での生活が余儀なくされた際、特に女性や高齢者の衛生管理の面で重要な取り組みであり、整備を促進して取り組む必要があると考えるが、見解を伺う。 2. 自転車ヘルメットの購入費用の補助について 4月1日から自転車乗車中のヘルメット着用が努力義務となった。ヘルメット着用と致死率の関係では、着用の場合は非着用の場合と比べて致死率は約半分になると言われている。 ヘルメットの購入を補助する自治体が増えている。本町でもヘルメットの購入費用に補助金を実施する考えについて伺う。 3. 带状疱疹ワクチンの助成について 带状疱疹は、多くの方が子どものときに感染する水ぼうそうのウイルスが原因であり、50歳代から発症率が高くなり、80歳までに約3人に1人が発生すると言われている。発生した人にみられる症状に、神経痛は約2割あり、角膜炎や顔面神経麻痺、難聴を引き起こすことがある。その中でも高齢者は発症リスクが高いため、予防が大切である。 特に高齢者の接種費用が高額なため助成の要望があるが、带状疱疹ワクチンの助成についての見解を伺う。 4. 不登校の生徒の高校進学を支援するための多様な学びの場の支援について 全国の小中学校の不登校の児童生徒数が急増している。文部科学省は令和5年3月31日、誰一人取り残されない学びの保障を社会全体で実現していこうと「COCOLOプラン」を発表した。以下の点について伺う。 (１) 保護者が一人で悩みを抱え込まないよう支援していくことは大変重要である。「COCOLOプラン」で示された「保護者の会」への支援について伺う。 ①「保護者の会」の設置について ②「保護者の会」にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー	町 長 教育長 町 長 町 長 町 長 教育長

	カーを派遣し、関係機関と連携して保護者を支援する取り組みについて (2)「多様な学びの場の確保」について伺う。 ① 学校内に校内教育支援センター（スペシャルサポートルーム）の設置について ② タブレット端末を用いたオンライン授業の活用について ③ 教育研究所にオンライン授業やテストも受けられるようにする取り組みについて ④ 学びを学校での成績に反映させることが重要と思うが、現在の状況と今後の取り組みについて	
4 8 番 鈴木 京子議員 (80 分) 14:40～16:00	1. 町長の「政策集」の今後について問う 「政策集」を強調されるが、町長は町全体に責任を持つ立場と考える。以下の点について、所見を問う。 (1) 町民の要望をまとめたと言われるが、町民の声はさまざま多岐にわたる。政策集がすべてなのか。その中に、市町村合併は含まれているのか。 (2) 政策集の工程表と行財政計画は、いつ示すことができるのか。実施計画も合わせ、問う。 (3) 事業の流れを変える際は、再度住民への説明と同意が必要と考える。特に本庁舎整備に対し、どのように合意形成を図るのか。 2. 認定こども園の整備は最初からやり直したらどうか 町営か民営かで議会の意見は分かれ、子どもと保護者が困っている。待機児童の解消の必要性に異論はないはずだが、ここに至った要因の一つは、前町政による情報の出し方にあると考える。 令和6年度当初の待機児童解消を基本に、激増する大磯学童保育のニーズにも応え、民間の否定ではなく町営の良さを生かすように、具体的に課題整理をして気持ちよく議論する場を設ける考えはないか。自治基本条例と議会基本条例を組み合わせ、さまざまな声を収れんし、住民本位のまちづくりに結実させることができたなら、町全体に好影響を及ぼすと考えられるがいかか。 3. チャットGPTの認識について問う チャットGPTは利便性だけでなく、さまざまな問題をはらんでいると考える。庁内では使用の議論はあるか。また、学校で使用するタブレット端末からアクセス可能と聞くが、教育現場ではどのような対応をしているのか、問う。	町 長 町 長 町 長 教育長

5 9 番 今井 茂議員 (40 分) 16:20～17:00	1. 町内の消費喚起について 昨今の物価高、エネルギー高、インボイスの導入、社会保障費の増も五公五民に近づきつつあり、町民の日々の生活のやりくりは並大抵ではないと推測される。平塚、二宮では、スターライトポイント等の給付は実行済みである。よって、以下について問う。 (1) 本来のやり方とは思えないが、応急処置としての商品券の給付はできないか。 (2) 大磯らしい潤いづくり協議会の活動と役割について問う。	町 長
---	---	------------

質問議員	質 問 事 項 (2 日 目)	答弁者
6 10 番 飯田 修司議員 (70 分) 9:00~10:10	1. 大磯町の地域公共交通計画について (1) 富士見地区の補助路線バスについて 10 年が経過し、毎年 2,000 万円を超える持ち出しを富士見地区の方々 は、非常に心を痛めている。朝の小学生の通学と分けて考えることがで きないか。小学生をマイクロバスに、朝、昼、夜、の利用者は限定され ているので、乗合いタクシー(4人)で可能ではないか。 令和 2 年のアンケートやワークショップを 2 回行った結果をなぜ生 かせないのか。毎年 20 名による地域公共交通会議が開かれているが、 意味はあるのか。 (2) 地域限定乗合タクシーについて 8 年が経過し試験期間も終了したと思うが、今後、全町にひろげて、 町内の交通弱者に利用していただいているかどうか。 ユニバーサルデザインタクシーに車イス用のスロープを装備し、障が い者や妊娠中の女性が安心して利用でき、交通弱者の外出を支える取り 組みを考える時期ではないのか。 2. 地域会館機能をもたない地区について 町内 24 地区で地域会館機能をもたない地区がある。具体的には山王町、 神明町、北本町、南下町についてどのように考え、建設予定はあるのか。	町 長 町 長
7 15 番 渡辺 順子議員 (80 分) 10:30~11:50	1. 町長の政治姿勢を問う 池田町長は、昨年 12 月の就任時に前町長時代から進めてきた町立大磯 幼稚園のこども園化及び新庁舎建設の 2 つの事業について、方向転換や休 止を独断で決めた。 それによって庁内組織を始め各関係機関、こども園を運営することが決 まっていた民間の事業者、特に来年 4 月の開園を待っていた多くの保護者 の間に混乱を招き、多大な迷惑をかけた。対外的にも町の信用を失墜させ ることにもなった責任は大きいと私は考えている。そこで次の 4 点につい て伺う。 (1) 2 元代表制や議決権などにおける議会と町長の関係性をどのように 捉えて決断したのか。 (2) 地方公務員法のもとに従事している町職員にあたえる影響につい ては、どのように考えたか。 (3) 決断に至る経緯や財源確保(普通交付税)などについて、町長は町 民に真実を伝えているか。 (4) 来年 4 月の開園に間に合わなくなった責任をどう取るのか。 2. 広告看板の設置手続きについて 本年 4 月 1 日より、広告看板設置の申請を町で受け付けるようになった が、最近営業を始めた国道沿いの古民家の飲食店の看板広告はどのような 手続きで進めたのか。現在、事業者と話していると聞いているが、町 の景観計画にあった手続きになるのか。	町 長 町 長

8 7 番 奥津 勝子議員 (45 分) 13:00～13:45	1. 地域公共交通計画策定への進捗状況を問う 町では令和5年度に町民からのアンケート調査を踏まえ、地域公共交通計画を策定することのことだが、交通に係る補助金は、この計画を作成することが必須のようである。 高齢化が進む中、交通事情の利便性が高い町を望むが、以下の点について問う。 (1) アンケートの内容と結果で分かったことは。 (2) 乗合タクシーの現状と課題は。 2. 大磯町地球温暖化対策実行計画の推進について 令和4年3月に、町は地球温暖化対策実行計画を策定した。本庁舎をはじめとする町が行うすべての事務事業、指定管理している施設も含む町有施設を対象とし、温室効果ガス排出量の削減目標に向け、さまざまな取り組みを行うとのことだったが、以下の点について問う。 (1) 町で目指す削減目標は。 (2) 一般公用車での取り組みについて何う。 (3) 実施状況について、点検を行っているか。 (4) 事務事業編を公表しているのか。	町 長 町 長
9 11 番 高橋 英俊議員 (45 分) 14:05～14:50	1. 地域集会施設の今後の対策（方向性）について 地域集会施設については、「大磯町公共施設等総合管理計画（平成29年3月策定・令和4年7月改訂）」やそれを踏まえて、各施設の具体的な将来の対策（方向性）を定めた「大磯町公共施設等第1期個別施設計画（平成30年3月策定・令和4年7月改訂）」により、町民移管・統廃合の取り組みを進めるため、区長連絡協議会等との調整や協議を行ってきたが、協議会からは、地域集会施設を自治会で移管を受けることはできないといった話になっていると聞き及んでいる。 取り組みに向けては、町民・利用者・関係団体等と十分な調整を行い、進める必要があると思うが、今後の地域集会施設の取り扱いについて、町長の所見を伺う。 (1) 地域集会施設は、他の公共施設と施設の位置づけが異なると思う。 計画では、町民移管、統廃合となっているが、このままの計画で進むのか。 (2) 計画の内容を変更した場合、「総合管理計画」、「個別施設計画」、他の計画はどのように改訂するのか。 2. 国府新宿森下公園付近の雨水整備状況について 大雨等によって、森下公園付近の住宅で未だに住宅内が浸水してしまう危険があるとの話があるが、整備状況について何う。	町 長 町 長

10 3 番 庄子 幸太議員 (70 分) 15:10～16:20	1. スポーツ表彰の運用について 毎年3月、大磯町のスポーツ優秀選手と功労者に対する顕彰（いわゆるスポーツ表彰）が行われるが、例えば優秀な成績を収めたスポーツ優秀選手に対し、表彰回数を2回までと制限している。さらに、1年を通じて行われるスポーツ大会において、年度末に1回の表彰では、受験などと重複してしまうなど、さまざまな町民のご意見も伝え聞く。 義務教育期から高等教育期と移行行く成長と共に年々レベルアップを目指してスポーツに励む選手たちへ、いかに寄り添うのか、町の見解と今後のあり方を問う。 2. 新庁舎整備の進め方について 令和5年3月、大磯町新庁舎整備基本計画で示された概算事業費・財源計画では、津波対策として駐車場を緩衝体とするなど、安全対策への計画が十分ではないと感じる町民の意見は少なくない。大きな事業費をかけて行うに値する安心安全が担保できるのか、大きな疑問である。 昨今の物価高騰を踏まえた事業費用を町民に示しながら、丁寧に整備についての議論・ヒアリングを進める必要があるが、町の見解と今後の進め方を問う。	町 長 町 長
11 1 番 清田 文雄議員 (40 分) 16:40～17:20	1. 町長の行財政運営について問う 昨年、町長に就任され令和5年度予算編成について、早速、池田町長の選挙中での政策、また町民の思いとして、小学校給食の無償化、子どもの医療費補助の拡大、火葬料補助金の増額等多くの新事業やその予算が組み込まれた。しかし、議決案件であった認定こども園民営化移行の件、継続事業であった新庁舎等建設事業の休止により、当初予算にはその事業費は組み込まれなかった。新たな事業を提案する際には、補助金、交付金等を考慮しつつ、事業提案をされてきたと思う。まして、以上述べた3つの事業は、一般財源や基金の取り崩しにより賄われているものと予算委員会の中でもあった。事業について決して反対するわけではないが、それらの事業はこれからも継続していかなければならない事業である。また、新庁舎等建設事業については、とりあえず耐震診断を行うということの委託費、認定こども園についても、町立にした場合さらに費用が掛かる。今年度、これからいくらかかるのか。また、これらについては町のお金でやりくりしなければならぬと思う。基金の取り崩しをしなければ賄いきれないと推察され、来年度の予算編成やこれからの町の将来について心配される。このことについて町の見解を質問する。	町 長

1 1 名 2 2 問

時間は、事情により変更になる場合がありますのでご了承ください。